

北九州市動物の愛護及び管理に関するあり方検討会【結果概要】 (令和3年度実施)

<p>【これまでの取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●本市での致死処分ゼロ社会宣言 (平成26年11月) 終生飼養の啓発及び指導の徹底、譲渡の推進 ●犬猫致死処分ゼロ対策事業の実施 (平成27年度～平成31年度) <ul style="list-style-type: none"> ・猫の飼育管理体制の強化 (譲渡用飼育室、猫保護観察室の整備等) ・市獣医師会が行う避妊去勢手術の助成頭数の拡大 ・負傷動物の治療体制の整備 ・ボランティアへの支援拡充 (譲渡する犬猫への避妊去勢手術等) 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●致死処分ゼロの目標をほぼ達成 ※病気やケガなどやむを得ない理由によるものを除く。 <p><致死処分数の推移></p> <p>H25年度 854頭 → R1年度 12頭 (98.6%減)</p> <p>H25 H26 H27 H28 H29 H30 R01</p>	<p>【新たな課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 致死処分ゼロの維持 <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な譲渡の実現 ●長期収容動物の飼養管理の改善 ●多頭飼育崩壊への対応強化 2 無責任な餌やりへの対応 <ul style="list-style-type: none"> ●飼い主のいない猫への餌やり苦情を減らすための対応強化 3 災害時のペット対策 <ul style="list-style-type: none"> ●市民啓発の強化 ●避難所受入れ体制の支援 ●ペット同伴避難所の検討
--	---	---

目標	持続可能な「致死処分ゼロ社会」の実現		
	<p>▶ 1 犬猫の理由なき致死処分「ゼロ」が維持されていること</p>	<p>▶ 2 犬猫による迷惑・被害・危害が減少していること</p>	<p>▶ 3 動物のいのちを尊重する気風が醸成されていること</p>

課題	1 致死処分ゼロの維持			2 無責任な餌やりへの対応		3 災害時のペット対策				
	持続可能な譲渡の実現		長期収容動物の飼養管理の改善		多頭飼育崩壊への対応強化		飼い主のいない猫への餌やり苦情を減らすための対応強化		市民啓発の強化や避難所受入れ体制の支援	
	<p>○動物愛護センターに保護されている犬猫の譲渡情報について、関係者との連携や譲渡啓発センターの整備等により、積極的に情報発信（広報）を進めることは有効である（情報発信の方法と発信内容について工夫する必要がある）。</p> <p>○新たな譲渡協力者の確保のためには、市からの支援内容を提示するとともに、確保の方策や審査基準、仕組みを検討する必要がある。</p>		<p>○高齢者世帯への譲渡条件を緩和することは、福祉の上でも効果があるので、検討すべきである。しかしながら、終生飼養の観点から、慎重に仕組みを検討する必要がある。</p> <p>○動物愛護センターでの飼養継続に一定のルールを設けることは、センター業務の継続性の観点から必要である。譲渡適性及び致死処分の判断については専門家の合意を得るような仕組みを検討する必要がある。</p>		<p>○多頭飼育崩壊の予防・早期発見・解決のために、動物愛護センターに情報を一元化し、関係機関と定期的に情報共有することは有効である。</p> <p>○多頭飼育の届出制度に関しては、実効性を上げるためには、効果を整理し、メリットをアピールして進めるべきである。</p>		<p>○無責任な餌やり防止のため、改正法に基づく指導・助言を徹底するとともに、適切な給餌方法に関するガイドライン等を作成し、指導していくべきである。</p>		<p>○市民・避難所運営者の双方が活用できる「ペット防災に関する手引書」は、ペットとの同行避難の認知度向上や啓発強化の観点から、早急に策定を進めるべきである。</p> <p>○ペット同伴可能な専用避難所の開設は、突発的な大規模災害においては、十分にその役割や機能を果たせない可能性がある。一方で、大雨など避難する時間的な余裕（リードタイム）がある場合、1～2日以内の試行的な開設については検討する余地がある。</p>	

ご意見 (概要)